

令和2年度 第1回川崎市立病院運営委員会 議事録

1 日時

令和2年9月14日（月） 13:03～14:45

2 会場

川崎市川崎区砂子1丁目8番9号 川崎御幸ビル7階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

大道委員長、野中副委員長、渡邊委員、関口委員、内海委員、広瀬委員

(2) 事務局

増田病院事業管理者

田邊病院局長

(川崎病院)金井病院長、千島副院長、林事務局長、山内患者総合サポートセンター副所長

(井田病院)中島病院長、藤原副院長、北村事務局長

(多摩病院)長島病院長、佐藤副院長、小林事務部長

(総務部)高田部長、関庶務課長、篠山担当課長

(経営企画室)岡室長、郷野担当課長、市川担当課長、田中担当課長、植竹担当課長

村田担当係長、横山職員

4 議題

(1) 川崎市立病院中期経営計画に基づく令和元年度の取組状況に対する点検・評価及び決算の概況について

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応と経営への影響について

(3) 次期中期経営計画の策定について

(4) その他

5 傍聴者

なし

6 議事

(岡経営企画室長)

定刻でございますので、ただ今より、令和2年度第1回川崎市立病院運営委員会を開

催させていただきます。

私は本日の進行を務めさせていただきます、病院局経営企画室長の岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の会議につきましては、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定に基づき、公開とさせていただきますので御了承願います。

なお、現時点で傍聴希望者はいらっしゃいません。

本日の資料は、次第に記載のとおり、机上に用意させていただいておりますので、不足等ございましたら、お気づきのタイミングで結構ですので、事務局にお知らせください。

なお、本日は川崎病院及び井田病院の理事者は、新型コロナウイルス感染症への対策として、TV会議による参加となりますので、ご了承ください。

本日は、委員の3分の2である4名以上の御出席をいただいていることから、「川崎市立病院運営委員会設置要綱」の規定に基づきまして、本日の委員会は成立しております。

それでは、開会に当たりまして、川崎市病院事業管理者の増田から、御挨拶をさせていただきます。

(増田病院事業管理者)

委員の皆さまにはご多用中のところ、またお足もとの悪い中ご出席を賜り、誠に有難うございます。

前回3月に予定されていた委員会は、新型コロナウイルス感染症COVID-19のため、止む無く中止とさせていただきました。

今回もまだCOVID-19の終息が見えない中、Web会議を含めての開催を模索しておりましたが、川崎市の情報管理が厳しいこともあり、川崎、井田両病院の職員は川崎市のイントラネットを利用したテレビ会議システムでの参加とさせていただいておりますが、委員の皆さまにはこのようにお集まりいただく形となり、誠に申し訳なく思っております。

次回の委員会ではWebによるリモート参加の選択もしていただけるよう、引き続き検討してまいります。

さて、本日の委員会では、中期経営計画に基づく令和元年度の取り組み状況について、点検評価をいただきたく存じます。

令和元年度は、2月のダイヤモンドプリンセス号のCOVID-19患者受け入れに始まり、3月半ばからは市中感染患者の対応等、年度末になり通常診療に大きな影響があったものの、一昨年度に引き続き何とか経常損益、純損益ともに黒字決算となりました。

本年度も市立3病院はCOVID-19患者診療を、公立病院の使命感をもって行っておりますが、その中で市民の健康を守るため、通常診療をいかに並行して行うかの努力もしております。後ほどご報告をさせていただきます。

本日は皆さまの忌憚のないご意見ご指導を賜りたく存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

い申し上げます。

(岡経営企画室長)

ここで、本日出席しております川崎市の職員のうち新任または異動した職員について、病院局長の田邊より御紹介させていただきます。なお、お手元の座席表の裏面にございます「関係職員一覧」を御参照ください。

田邊局長、よろしく願いいたします。

(田邊病院局長)

病院局長の田邊でございます。よろしく願いいたします。私の方から、新任または異動した職員を御紹介させていただきます。

まず、本庁でございますが、経理担当課長の市川寛でございます。

次に、多摩病院運営管理担当課長の田中良典でございます。

次に、病院施設整備担当課長の植竹勇でございます。

次に、川崎病院でございますが、患者総合サポートセンター副所長の山内秀行でございます。

次に、井田病院でございますが、副院長兼看護部長の藤原実香でございます。

次に、事務局長の北村修でございます。

次に、多摩病院でございますが、病院長の長島悟郎でございます。

新任または異動した職員の紹介は以上でございます。

(岡経営企画室長)

それでは、これ以降の進行につきましては、大道委員長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

(大道委員長)

それでは、これ以降の進行を務めさせていただきます。

では、次第の「2」、「議事録署名人」の指名でございます。

本委員会につきましては、委員による会議録の確認が必要となっております、その確認をいただく議事録署名人は、従前より持ち回りとなっております。本日の委員会については、渡邊委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(渡邊委員)

了解しました。

(大道委員長)

ありがとうございます。それでは、よろしく願いいたします。

それでは、「議題」に入らせていただきます。

はじめの議題「川崎市立病院中期経営計画に基づく令和元年度の取組状況に対する点検・評価及び決算の概況」についてでございます。

本日の委員会では、川崎市立病院中期経営計画に基づく令和元年度の取組や目標の達成度等について、各病院から説明を受け、その妥当性について審議してまいります。

はじめに、「令和元年度の決算の概況」について、事務局から説明をお願いします。

(市川経理担当課長)

経営企画室経理担当課長の市川でございます。

それでは、「令和元年度 病院事業会計 決算概況」について御報告させていただきます。お手元の「資料1-1」を御覧いただきたいと存じます。

なお、時間の都合により、4ページの業務実績の一部と5ページの経営状況について説明し、その他のページについては各ページの概要のみ説明させていただきます。

初めに、1ページをお開き願います。病院事業全体の「業務状況」でございまして、病院ごとの具体的な取組みをお示ししております。

次に、2ページをお開き願います。こちらでは、「収支状況」、「患者状況」、「診療収益状況」、「主な建設改良」をお示ししております。

次に、3ページを御覧ください。2の「経営成績」でございます。上から、病院事業合計、直営2病院の計、川崎病院・井田病院の内訳、指定管理者制度を導入しております多摩病院についての営業成績をお示ししております。

次に、4ページをお開き願います。3の「業務実績」でございます。こちらでは、直営2病院の計、川崎病院・井田病院の病院別内訳、多摩病院について、患者延数と診療収益についてご説明いたします。

上から2つ目の表、川崎病院についてですが、患者延数の入院は、令和元年度は17万5,894人で、前年度比9,751人の減少でございます。

その下の、外来は、31万2,697人で、前年度比1万4,811人の減少でございます。川崎病院では入院及び外来において患者数が減少しましたが、これは主に内科の医師数が減少したことによるものでございます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により2月以降、入院及び外来患者数が減少しました。

診療収益の入院は、令和元年度は114億1,505万3千円で、前年度比2億7,660万5千円の減少、外来は、47億8,250万6千円で、前年度比1億6,965万5千円の増加でございます。

次に、その下の井田病院をご覧ください。患者延数の入院は、令和元年度は11万2,480人で、前年度比2,298人の増加、外来は、16万1,024人で、前年度比1,407人の増加となっ

ております。井田病院では入院及び外来の患者数が増加しましたが、これは主に地域医療連携の取組を推進したことによるものでございます。

また、井田病院においても新型コロナウイルス感染症の拡大により2月以降、入院及び外来患者数が減少しました。診療収益の入院は、令和元年度は52億1,756万2千円で、前年度比2億6,955万1千円の増加、外来は、28億3,825万3千円で、前年度比2億5,722万円の増加でございます。

次に、その下の多摩病院については、指定管理者からの報告値でございます。患者延数の入院は、令和元年度は11万4,205人で、前年度比1,850人の増加、外来は、21万5,483人で、前年度比1,850人の減少でございます。診療収益についても、利用料金制のため、本市病院事業会計の決算に含まれておりませんが、入院は、令和元年度は63億9,046万円で、前年度比6,582万6千円の減少、外来は、29億3,279万9千円で、前年度比1,195万5千円の減少でございます。

続きまして、5ページを御覧ください。4「経営状況比較年次表」でございます。これは病院事業の経営状況について、平成29年度から令和元年度までの3か年の推移を税抜き、千円単位でお示したものでございます。

このページの一番下の行から上へ5行目、「純損益」の「令和元年度の決算額」の欄を御覧ください。3病院合計で4億4,472万7千円の純利益で、前年度比4億2,515万円の減少でございます。これは、1行下の川崎病院において、7億771万8千円と前年度比4億8,212万3千円の減少となったことなどによるものでございます。

続きまして、6ページを御覧ください。5「決算総括表」でございます。円単位で記載しております。予算執行状況、収益的収支・資本的収支、収支差引不足額に対する財源措置の状況、累積財源過不足額についてお示ししております。

最後に、6「財政健全化法における資金不足比率の状況」でございます。資金不足とっていないことからバー記号の表示となっております。

以上で説明を終わらせていただきます。

(大道委員長)

ただいま、事務局から「令和元年度の決算概況」について報告がありましたが、ただいまの「決算の概況」と、中期経営計画で示している「目標値」との比較について、事務局から説明をお願いいたします。

(郷野経営企画担当課長)

経営企画室経営企画担当の郷野でございます。お手元の資料1-2を御覧ください。只今報告がありました令和元年度決算概況と、「中期経営計画の目標値との比較」について御説明いたします。

この資料は、病院毎に、①収益的収支、②資本的収支、また直営の川崎病院と井田病院については③として財務指標をまとめたものでございます。

1 ページ目の川崎病院ですが、「①収益的収支」の、下から2段目、「純損益」について、令和元年度につきましては、目標値13億5,500万円に対し、実績値は7億800万円で、目標値を6億4,700万円下回っております。

3 ページにまいりまして、井田病院ですが、同じく「①収益的収支」の「純損益」は、目標値マイナス3億5,700万円に対し、実績値はマイナス4億2,500万円で、目標値を6,800万円下回っております。

5 ページにまいりまして、多摩病院ですが、こちらは利用料金制による指定管理のため、数字は本市としてのものとなっております、「①収益的収支」の「純損益」は、目標値1億8,900万円に対し、実績値は1億6,200万円で、目標値を2,700万円下回っております。

6 ページにまいりまして、病院事業全体ですが、「①収益的収支」の、「純損益」は、目標値11億8,700万円に対し、実績値は4億4,500万円で、目標値を7億4,200万円下回っております。

なお、事業の状況につきましては、この後、各病院から報告がありますので、そちらで御確認いただければと存じます。

説明は以上です。

(大道委員長)

ただいま、事務局から「令和元年度病院事業会計決算概況」及び、「目標値との決算額との比較」につきまして説明がありましたが、何か御意見・御質問等がございますか。

(野中副委員長)

資料1-1の4ページをご覧ください。コロナ禍ということで、情勢的にみると多くの医療機関の経営を圧迫していると伺っておりますが、その中で井田病院だけが前年と比べて患者数、診療収益が増えている。その辺の背景は？

(大道委員長)

では、井田病院から今の質問についてご説明頂けますか。

(北村井田病院事務局長)

このコロナの状況にあって井田病院の実績が上がっている要因の一つとしては、地域医療連携の取組を令和元年度に積極的に行ったことがあると認識しております。

(野中副委員長)

ありがとうございました。

(大道委員長)

昨今、医療機関の経営状況について、広く報道されているところですが、これは令和元年度の話でして、経営状況が深刻化しているのは非常事態宣言等が出た、令和2年度の4月または5月、特に5月がどうもボトムだと認識で関係者は共有しているところでございますが、令和2年度のこの委員会ではまた、別の意味での報告があろうかと思えます。それについても、井田病院の実績については評価されるべきところだと思います。

他にご意見はございますか？

(田邊病院局長)

今の件について補足でございますが、井田病院はご承知のとおりまだ赤字を毎年計上しているという中で、経営改善を進めてきております。それが順調にいておりまして、昨年度につきましては、毎月前年度比5,000万円ずつ売上を伸ばしてきました。

順調に経営改善が進んでいる中で、コロナの影響は2月のダイヤモンドプリンセス号の患者さんを受け入れた時から始まりまして、2月、3月でその伸びが止まりました。

そのような状況でございますので、患者受入がなければ更にもう少し良い決算ではなかったかと思われまます。以上でございます。

(大道委員長)

ありがとうございます。井田病院は当委員会でも、ここ数年にわたって、なかなかつらいところもあったわけですが、そのような中でも今回の実績というのは先ほども申し上げたとおりでございます。ありがとうございました。

では次に、各取組の達成度を評価するに先立ちまして、「点検・評価の手法」について、事務局から報告をお願いします。

(郷野経営企画担当課長)

「点検・評価の手法」について御説明いたします。お手元の資料1-3を御覧ください。

今回も例年同様、令和元年度の取組状況につきまして、各病院の自己評価を取りまとめ、この後、各病院からご説明しますので、内容について点検・評価をお願いいたします。

具体的な点検・評価の手法ですが、資料の2ページをご覧ください。基本的には例年どおりでございますが、まず、資料右下の評価基準のとおり計画上の各具体的取組に係る

成果指標の実績値により機械的に1から5までの評価を行い、次に、この成果指標と取組内容を総合的に評価し、資料右・中段の評価基準のとおり「A」から「E」までの5段階で評価します。さらに、これを計画上の取組項目ごとにまとめまして、資料右・上段の基準のとおりローマ数字「I」から「IV」までの4段階で評価します。この中段及び上段の評価につきましては、本日の資料では各病院による自己評価で入れておりますが、当委員会での点検・評価によりまして、客観的な外部評価とさせていただきます。

また、この後、点検・評価書にまとめる中で、取組課題ごとに、当委員会で頂いた御意見等をまとめ、〈総括〉として記載することとしております。

なお、最終的な点検・評価書の様式については、お手元の資料1-5から1-7のとおりとなっておりますが、量が大変多くなりますので、本日はこの内容を取りまとめました資料1-4でご説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。

(大道委員長)

ただいま、事務局から説明がありました、「点検・評価の手法」につきまして、委員の皆様から、何か御質問等はございますか。

それでは、中期経営計画に記載されている取組課題ごとに、具体的な「取組状況」、「達成度」及び「進捗状況」について、各病院から報告をお願いしたいと思います。

なお、本委員会の時間も限られておりますので、ポイントを絞って報告願います。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院事務局長の林でございます。よろしくお願いいたします。

資料1-4をお開きください。まず、取組課題1の「医療機能の充実・強化」のうち、「取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化」及び「取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充」について、下線が引いてある取組項目を資料の順に沿って、各病院から説明させていただきます。

それでは、1ページ上段「①救命救急医療の充実」について説明させていただきます。成果指標の評価は、3、5となりました。三次救急搬送患者については、「断らない救急」を達成できたものと考えております。

また、救急自動車搬送受入台数は、新型コロナウイルス感染症の影響等があったものの、昨年度と同程度の受入台数となり、近年の減少傾向に対して下げ止められたものと考えています。

昨年9月から、「かわさきコロナリーホットライン」と称する、循環器疾患症例への早期搬送化への取組として、24時間365日、救急隊から直接、循環器内科医が対応する、専用電話を開設し、迅速な診断治療に繋げており、当院の心カテ・PCI実施件数の改善が見

られました。

本年10月からは、新たに当院の連携登録医へも専用電話をお知らせする予定です。また、新型コロナウイルス感染症の影響はある中で、積極的な熱中症例の患者受け入れを行うとともに、本年7月から、「かわさき腹急ホットライン」と称する、連携登録医向けの新たな直通電話を開設し、24時間365日、直接、消化器内科医または外科医が受電する取組を始めました。順調に件数も増えていることから、今後、救急隊へもお知らせすることを検討しております。

取り組みの達成度は「Cのほぼ目標どおり」といたしました。資料の一番右の列を御覧ください。進捗状況でございますが、①及び②の取組の達成度がC、Bで構成されており、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、「Ⅱの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院事務局長の北村でございます。

1ページの下段、①救急医療（初期・二次）の強化でございます。

成果指標といたしましては、救急自動車搬送受入台数は、前年度を上回りましたが、新型コロナウイルス対応も影響し、目標値を大きく下回ったことから、評価は5、救急患者数につきましても目標値を大きく下回ったことから、評価は5となりました。今後は、救急需要が増大する中、受け入れ体制の更なる強化を図ってまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、目標を大きく下回ったことからE、進捗状況といたしましては、進捗が遅れていることからⅢといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部長)

多摩病院事務部部長の小林でございます。

それでは、2ページの「多摩病院」をご覧ください。「①救急医療（一次・二次）の安定的な提供」でございます。

成果指標といたしましては、「救急自動車搬送受入台数」が、5,727件と目標値を1,565件上回りましたことから評価は「1」、この件数は開院以来最多となっております。

「救急患者数」につきましても、13,256人と目標値を556人上回り、評価を「3」といたしました。今後も24時間365日、断らない体制を構築し「救急自動車搬送受入台数」「救急患者数」の確保に努めてまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は目標を大きく上回ったということで「A」、進捗状況といたしましては、目標達成に向けて進捗がありましたので、「順調に進捗」して

いるということで「I」といたしました。以上です。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

それでは、3ページ上段、「がん診療機能の強化」について説明させていただきます。
成果指標の評価は、1、3、4となりました。

令和元年度は、神奈川県がん診療連携指定病院の指定更新を受けました。

また、MRIの更新やPET-CTの活用拡大などに、取り組んだ結果、地域におけるがん診療連携機能の強化・拡充を達成できたものと考えますので、達成度は「Cのほぼ目標どおり」といたしました。

今後の取組としましては、現在、新たに高性能の空調設備等を備えた無菌室、5室を今年度内に整備することとしておりまして、白血病や悪性リンパ腫、それに対する化学療法などにより、免疫力が低下している患者への対応として、準備を進めているところでございます。

資料の一番右の列の進捗状況については、取組の達成度がCであり、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、「IIの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

3ページの中段、「①地域がん診療連携拠点病院としての機能強化」でございます。

成果指標といたしましては、がん登録数、内視鏡治療件数は目標を上回り、がん手術件数は目標を概ね達成している状況でございます。しかしながら、内視鏡検査件数につきましては、平成30年4月から、川崎市の胃がん検診が2年に1度となったことから目標値を大幅に下回る結果となっております。したがって、評価につきましては、2、5、2、3となりました。今後は、安心して治療が受けられよう、がん診療機能の強化をはかるとともに、患者・家族の支援に努めてまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、ほぼ目標通りということからC、進捗状況は、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、IIといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部長)

多摩病院でございます。

それでは、3ページの「多摩病院」をご覧ください。「診療機能強化と報告の推進」で
ございます。

成果指標としましては、「がん登録数」が減少しましたことから評価は「5」、「がん手術件数」につきましては目標値を上回りましたので評価を「1」といたしました。今後も「化学療法の積極的な実施」ならびに「地域がん登録」、「全国がん登録」への参加に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「ほぼ目標どおり」ということで「C」、進捗状況といたしましては、「一定の進捗がある」ということで「II」といたしました。以上です。

(大道委員長)

ただいま、「取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化」及び「取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充」について、取組状況、達成度及び進捗状況の説明がありました。何か御意見・御質問等がございますか。

(広瀬委員)

井田病院の救急自動車搬送受入台数は、要請があったにもかかわらず、受入台数が少なかったということでしょうか？

(大道委員長)

井田病院どうぞ。

(中島井田病院院長)

井田病院の中島でございます。ありがとうございます。

当院では不応需率をできるだけ下げよう各職員に投げかけておるのですが、救急自動車搬送受入台数が目標に大幅に届かなかった一つの原因は、年度末からコロナの影響で川崎市の救急搬送件数が減ったこと、それからウォークインの患者さんも減ったので、伸び悩んだと考えております。

昨年度から川崎病院の救急科に介入していただいております、二次救急に注力しているところなんです、数字の上ではあまり表れなかったという状況です。

しかし、本年度についてはこの資料にはございませんが、救急医の準夜帯当直体制の導入等により徐々に効果が出てきていると感じております。以上です。

(大道委員長)

続けてどうぞ。

(広瀬委員)

今のお話から、コロナで要請自体が減っているということだと、成果の数値から見ていくと大きく下回ったや進捗が遅れているということになるのですが、評価の理由と今後の方向性を見ると元々の取組内容の②～④は進めていると見えるのですが、そういうものを考えると、目標を大きく下回っていると数値だけで見て良いのかと思うのですが、どう考えれば良いのでしょうか。達成度はEではなくDでも良いのかと思いますが……。

(大道委員長)

これは当委員会の問題だと思います。つまり、外部環境の変化がかなり強い、病院としてみては努力しても改善というか評価を引き上げるだけのことがそもそも構造的にできないような中で、結果として数値が低い時に、最終的にEという評価で良いのかということだと思います。

それで毎回これは議論になるのですが、数値に基づいて、あえて言えば機械的に対応せざる負えないというのが、市全体としての評価の方法だと繰り返し説明されてきて、そこをどうしても、特段の事情があればあえて変えるということは可能なんですけども、例えばEを一段引き上げるというわけですが、これもなかなか難しいもので、十分に内部環境の変化を説明した上で、実情は十分承知したということに変えないというものもあると思いますが、他の委員の方でもし御意見があればいただきます。

御意見が無ければ変えないということになります。

(広瀬委員)

そうですね。

(大道委員長)

同様に井田病院が内視鏡検査について、やはり目標達成に至らなかったということで評価を下げているのですが、説明によると市の検診が1年に1回だったのが、2年に1回になったということで、これは結果的に下がったとかなり理由がはっきりしている。これも同様の背景になります。

中期経営計画の評価の考え方は、先ほど申し上げたとおり繰り返し議論になっていますが、市全体との整合性もございますので、委員会としては実情は十分に把握したと、ただ評価の手法についても、一定の制約もあるので実情を十分に踏まえた上で、結果としてはこの評価にしたということによろしいでしょうか。

今のような問題とは別に何か評価について、見直した方が良いのではないかという意見があればお願いします。

(関口委員)

川崎市医師会の関口でございます。

川崎病院の①救命救急医療の充実についてですが、三次救急搬送患者応需率が3、救急自動車搬送受入台数が5で、内科専攻医の減少という事情があって昨年度から救急自動車搬送受入台数が減っていたと記憶しているのですが、3と5で達成度がほぼ目標通りというところ、数字だけで判断するとこれはDということになってしまうのですが、いかがなものでしょうか。

(大道委員長)

ごもった御意見ですね。ここは自己評価をした川崎病院に、何故三次救急搬送患者応需率が3で、救急自動車搬送受入台数が5だと、それで何故Cになったのか、Dでなかったのか、御説明いただけますか。

(林川崎病院事務局長)

先ほどの説明にもありました通り、川崎病院の取組としてコロナリーホットラインというようなものも始めておまして、台数などについては下げ止まったというところで、目標通りという形で評価としてはCとさせていただいております。いずれについても昨年から言っている通り、色々な取り組みをやって、成果が徐々に出てきております。全部コロナの影響というつもりは無いのですが、取り組みをやっておりますので、評価はCということにさせていただきました。以上です。

(大道委員長)

今のような説明で関口委員よろしいでしょうか。

(関口委員)

他の委員の先生方がCでよろしいのではという意見であれば、私の方からはこれ以上意見はありません。

(大道委員長)

分かりました。こうなると先ほどのEというのはそのまま良いのかという話になるのですよね。自己評価は大いに尊重したいというのが当委員会の姿勢ではあるのですが、時間の関係もあり、これ以上踏み込んだ議論はできませんが。関連して御意見ございますか。

(野中副委員長)

成果指標の評価というところで、5を付けられているところを見ると、目標値が前年実績と比べて意外と高く設定されて、その結果目標値に達していないと取れるところが結構あると思います。

また、平成30年度の目標はどれになるのでしょうか。令和元年度の目標値に対して評価するということなののでしょうか？この表の見方を御説明いただきたいと思います。

(大道委員長)

事務局お願いできますか。

(郷野経営企画担当課長)

資料1-4については令和元年度の目標値と実績値を記載しておりまして、今年度からその前の年の平成30年度実績値も併せて、参考として記載させていただいております。

(大道委員長)

令和元年度は目標値に対しての実績値、これの乖離と言いますか、達成度合いを見て評価したということなので、平成30年度の実績値は参考値ということ。

しかし、野中副委員長の御指摘は目標値の設定の仕方について、これは前回も議論になったのですが、毎回出るのですが、何故目標値をこのレベルにしたのかと、機械的だったのか、自分たちの思いだったのか、それとも外部的要因がそれなりの根拠があって目標値を設定したのか、今一つはっきりしないですね。ただ、結果的にハードルが高くてそれを達成しないから5というのは、我々評価をする運営委員会としては、評価の意味合いということを問われてしまいまして、現場のモチベーションアップという意味ではこういうことにしたということであれば、それなりに意味があるが、ただハードルを高くして、達成しないので5だというのは、ただハードルが高いので仕方がない、達成しないので5は5であるということでは本当に良いのかというのはいつも問題になります。ただ、今の中期経営計画は今年度で終わり、次期中期経営計画に移行しますので、その時に目標値の設定については、前回も申し上げたとおり、是非病院局の方でよくご検討いただき、他の自治体等でも目標管理をしておりますので、その時の目標の置き方について、妥当で適切な、しかも意義があって現場に良い影響のあるような目標設定をすることを是非ご検討いただきたいと思います。

(増田病院事業管理者)

これにつきましては、左から2列目の参考ページがございまして、資料1-5の1から2ページをお開き頂いて、今の話は1ページに出ておりまして、中段に成果指標というの

がございまして、救急自動車搬送受入台数に関しましては、平成26年度実績値は7,332件ということで、中期経営計画の平成28年度から令和2年度までは目標値として7,332件をそのまま置いてあるということでございます。ただし、外部環境の変化、他の病院の救急自動車搬送受入件数が多くなった等の外部環境の変化で、実際には目標値と実績値にかなりの開きが出ているというのは、現在の状況でございます。これが途中直せないということは、何回も仰っていただいていることでございます。ですからこれで見ると実績値は徐々に減ってきているという状況になっております。他のところも資料の1-5の参考ページを見ますともう少し詳しく載っておりますので、是非この辺を参考にいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(大道委員長)

私の立場からのコメントは差し控えますが、例えば基本の事情として外来患者数、入院患者数、これの目標を達成したか、しないかも、多ければ良いという時代じゃない可能性もあるわけです。市立病院としては、市立病院が診るべき患者さんをしっかり外来であれ、入院であれ診ているのだということをお示しすることが本来的な評価であると言えばその通りなので、そのための目標は、入院患者数はともかく外来患者数は多ければ良いという時代ではないということも事実なので、その辺りの御検討を先ほど申し上げた内容で、次期中期経営計画ではしっかりと御対応をいただきたいと思っております。

さて、時間を少し過ぎてしまいましたので、次の説明項目へ進みたいと思っております。その上で、最後に総括で戻っていただいてもよろしいと思っております。

結果として、取組項目(1)と及び(2)につきましては、評価指標と変更は無しということで対応させていただきます。よろしくお願いいたします。

では、各病院から報告の続きをお願いします。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

続きまして、取組課題1「医療機能の充実・強化」のうち、「取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実」、「取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進」、「取組項目(5) その他医療提供体制の強化」について、説明させていただきます。

それでは、4ページ上段「①小児・周産期医療の確保」について説明させていただきます。成果指標の評価が5、5、5となりました。

「救急面の活動性」を表す「周産期救急患者受入数」は目標数には至りませんでした。「周産期医療の地域的ニーズの規模」を表す「NICU及びGCUにおける新規入院患者数」は、若干減少しましたが、これは産科医や助産師などの妊娠中の管理が向上したことにより減少したものと考えております。引き続き、周産期救急関連の入院要請に着実に対応で

きる体制を堅持してまいります。達成度につきましては、「E 目標を大きく下回った」といたしました。

なお、この取組を表す主な成果指標については、次期計画の中で改めて検討してまいります。

今後の取組としましては、医療機能再編整備計画の中で立会い分娩など、患者ニーズにあわせた環境整備を行ってまいります。

資料の一番右の列の進捗状況につきましては、①、②及び③の取組の達成度がE、B、Dで構成されており、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、「Ⅱの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

4 ページの下段、「②成人疾患医療の充実」でございます。成果指標といたしましては、糖尿病教育入院実患者数は、目標値を大幅に上回っていることから、評価は1、専門外来の設置数は目標値を上回っていることから、評価は2となりました。

今後は、広範囲にわたる成人疾患に対する質の高い医療の提供を目指してまいります。資料の右の列、達成度は、目標を大きく上回って達成したことからA、進捗状況は、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、Ⅱといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、5 ページの「多摩病院」をご覧ください。「②脳神経外科における診療の充実」でございます。

成果指標といたしましては、「脳血管系造影件数」「脳神経外科入院・外来延べ患者数」ともに目標値を下回ったことから評価は「5」といたしました。今後も「脳神経外科医の安定的な確保」・「血栓溶解療法（t-PA治療）の実施」「専門外来の継続」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「目標を下回った」ということで「D」、進捗状況といたしましては、「進捗が遅れている」ということで「Ⅲ」といたしました。以上です。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

6 ページをお開きください。下段の「②医療依存度の高い患者に対する在宅医療の提供」でございます。

成果指標といたしましては、医療依存度が高い患者に対する往診患者実数は前年度より増加しましたが、目標値を下回ったことから評価は4、24時間連携登録医からの受入患者数は、目標値を大幅に下回ったことから評価は5となりました。

令和元年8月に在宅療養後方支援病院の届出が受理されたことから、今後につきましては、支援病院としての広報を行い、在宅からの緊急入院患者の受入れをさらに進めてまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、目標を大きく下回ったことからE、進捗状況は、進捗が遅れていることからⅢといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、7ページの「多摩病院」をご覧ください。「①地域医療支援病院の運営と強化」でございます。

成果指標といたしましては、「紹介率」、「逆紹介率」においては目標値を上回りましたことから評価は「1」、「検査機器の共同利用件数」に関しては目標値を下回りましたので評価は「5」といたしました。今後も「登録紹介医制度の推進」ならびに「検査機器等の共同利用の推進」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「目標を上回って達成」ということで「B」、進捗状況といたしましては、「順調に進捗」ということで「I」といたしました。以上です。

(林川崎病院事務局长)

川崎病院でございます。

次に、8ページ上段「①精神科救急医療の強化」について説明させていただきます。成果指標の評価は5、5となりました。精神科救急患者受入数については、4縣市協調体制の精神科救急システムを経由した入院であるため、当院でのコントロールができるものではありませんが、前年度より減少し、目標値に達しませんでしたので、達成度を「E 目標を大きく下回った」といたしました。

しかしながら、今後も引き続き、患者の受入れが円滑にできるよう運用を続け、病病連携の促進、県精神科救急体制との調整等を進めてまいります。

次に、次の段「②感染症医療の確保」について説明させていただきます。成果指標の評価は3となったところでございます。

本年2月以降、厚生労働省・神奈川県・空港検疫所・川崎市から、新型コロナウイルス感染症の陽性患者の受入要請が20件ございました。ダイヤモンド・プリンセス号から11名、市内発生9名を受入れました。

また、当初、感染症病床12床を5室6床での運用としましたが、ピーク時には32床まで、病床を拡張して対応するとともに、総合内科と救急科の医師10名で構成する「コロナチーム」を結成いたしまして、24時間の診療体制を構築いたしました。それらことから、達成度は「B目標を上回って達成」といたしました。

資料の一番右の列の進捗状況については、各取組の達成度E, B, D, Cで構成されており、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、「Ⅱの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(大道委員長)

ただいま、「取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実」、「取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進」、「取組項目(5) その他医療提供体制の強化」について、取組状況、達成度及び進捗状況の説明がありました。何か御意見・御質問等がございますか。

(関口委員)

4ページの井田病院です。①チーム医療の推進と②成人疾患医療の充実で、成果指標の評価が1、5、1、1、2で令和元年度の達成度がBとAでしたら、進捗状況はIでもよろしいのではないのでしょうか。以上です。

(大道委員長)

その通りですね。今のご指摘はいかがでしょうか。

病院に御説明はいただいたので、いつも自己評価は控えめの傾向がどうもあるんですね。ここまでおやりになったら、Iでも良いのではということですね。

いかがでしょうか。Ⅱのままが良いのではないかというご意見がございましたらいただきます。

目標管理の前提とは、目標を設定して医療現場がその目標に向けて努力をする。その実績、成果が上がったという、このモチベーションが基本なんですよね。ところが、結果としてこうなって、普段あまり意識してないですよというみたいなことがあったとすると、これはなかなか、数値目標の設定とは一体何なんだということになるのですが、ここもですね。やっぱりIを目指したところⅡだったということなのか、それとも結果としてIを達成したということじゃないかという、こういう現場としての問題意識を是非、期待したいというところですね。

よろしければ、御意見、御指摘ありましたので、進捗状況についてはⅡをⅠに引き上げるといふことで、異議はなさそうですのでそのようにさせていただきます。ありがとうございました。

他の部分について御指摘、御意見あればいただきます。よろしければ、一通り進めさせていただきます。

では、各病院から報告の続きをお願いします。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

取組課題2の「医療の質と患者サービスの向上」のうち「取組項目(1) 人材の確保と育成の推進」及び「取組項目(3) 患者に優しい病院づくり」について、説明させていただきます。

まず、9ページ上段「①医療従事者の確保」についてです。成果指標の評価は、5、1となりました。「職場に対する総合的な職員満足度」は、調査の結果を職種別の傾向では、医師は5割を超えて高く、看護師は2割程度と低くなっています。

職員数の多い看護師への取組みとしては、休暇取得や産休・育休制度の取得推進など、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境の整備に努めているところがございますので、達成度は「Cほぼ目標どおり」といたしました。引き続き、多様な働き方や研修制度の充実などに取組んでまいります。

一番右の列の進捗状況については、各取組の達成度がC、C、Eで構成されており「Ⅲの進捗が遅れている」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

10ページをお開きください。上段の「①医療従事者の確保」でございます。

成果指標といたしましては、職場に対する総合的な職員満足度は平成30年度より上昇はしているものの、目標値を大幅に下回ったことから評価は5、レセプト査定率につきましても、平成30年度より改善はしているものの、目標値を大幅に下回ったことから評価は5となりました。

レセプトの査定率につきましては、毎月の保険委員会において、算定ルール等の周知を行うとともに、各診療科の状況に合わせた取組を進めてまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、目標を大きく下回ったことからE、進捗状況は、進捗が大幅に遅れているといふことでIVといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、11ページの「多摩病院」をご覧ください。「①医療従事者の確保」でございます。

成果指標といたしましては、「基幹型臨床研修医の受け入れ」「医師事務作業補助者の人数」とともに目標値を上回りましたことから評価は「1」といたしました。

今後も医療従事者の確保に対し「病院実習生の受入れ」ならびに「病院見学・インターンシップの受入れ」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「目標を大きく上回って達成」ということで「A」、進捗状況といたしましては、「順調に進捗」ということで「I」といたしました。以上です。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

13ページ上段「積極的な情報発信と相談体制の強化」について説明させていただきます。成果指標の評価は3、5となりました。

外来患者満足度は、「受付から検査・診察が始まるまでの待ち時間」に対する不満の割合が高い状況は続いていますが、対応策として、待ち時間を有効に過ごしていただくために、院内無料Wi-Fiのアクセスポイントを、3か所増設するとともに、本年2月に外来診察待ち状況の通知ができる患者向けスマートフォンアプリを導入し、引き続き患者サービス向上に取り組ましました。

達成度は「D目標を下回った」とし「Ⅲ進捗が遅れている」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

13ページの中段「市民に信頼される医療の提供と分かりやすい情報の発信」でございます。

成果指標といたしましては、入院患者満足度は、前年度実績を上回り、目標を達成していることから評価は3、外来患者満足度につきましても前年度実績を上回り、目標を達成していることから評価は3となりました。

今後は、患者本位の医療の提供に努めるとともに、患者に分かりやすく利用しやすい情報の積極的な発信など、患者サービスの向上に努めてまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、ほぼ目標とおりのC、進捗状況は、目標達

成に向けて一定の進捗がありましたことから、Ⅱといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、13ページの多摩病院をご覧ください。「分かりやすい情報提供と利用(りよう)しやすい施設の強化」でございます。

成果指標といたしましては、「入院患者満足度」「外来患者満足度」とともに目標値を若干ですが下回りましたので評価は「3」といたしました。今後も「医療相談センターにおける患者相談窓口の一元化」、「ホームページのリニューアルと内容の充実」、「市民健康講座の開催」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「ほぼ目標どおり」ということで「C」、進捗状況といたしましては、「一定の進捗がある」ということで「Ⅱ」といたしました。以上です。

(大道委員長)

ただいま、「取組課題2 医療の質と患者サービスの向上」について、取組状況、達成度及び進捗状況の説明がありました。何か御意見・御質問等がございますか。

(関口委員)

9ページ川崎病院③働きやすい職場づくりなんですが、昨年度の実績33.7%が元年度は37.5%、ただ目標値から成果指標が5になっていますが、改善を見れば元年度の達成度はDでもよろしいのではないのでしょうか。以上です。

(大道委員長)

今の御指摘も他の委員の立場で、いかがですか。

(広瀬委員)

私もDで良いと思います。

(大道委員長)

広瀬委員からも賛同の御意見です。他の委員の方からも特段御指摘が無ければ、今の関口委員の見直しについて、そのようにさせていただきたいと思います。よろしゅうございますね。

(広瀬委員)

ですので、ここをDとすると、進捗状況についてもⅢの進捗が遅れているから、Ⅱの一定の進捗があるとしても良いのではないのでしょうか。

(大道委員長)

変えないと整合が取れない可能性がありますね。それでは、今の御意見もどうでしょうか、よろしいでしょうか。

では、そのようにⅡとさせていただいて、結果として先ほどの関口委員の御意見もいただくということに修正をさせていただきます。よろしくどうぞ、お願いいたします。他の点で御指摘ございませんか。

では、各病院から報告の続きをお願いします。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

取組課題3「強い経営体質への転換」のうち「取組項目(1)収入確保に向けた取組の推進」及び「取組項目(2)経費節減に向けた取組の推進」について、説明させていただきます。

14ページ上段「取組項目(1)収入確保に向けた取組の推進」についてでございます。成果指標の評価は、3、2、1及び5となりました。

平均在院日数は、前年度に比べ0.2日短縮し、11.5日となりましたが、更なる短縮を図りながら、救急科と他科との連携を促進するとともに、地域医療連携を推進し、他院からの紹介患者や病床利用率の増加、ひいては医業収益の増加を目指すとともに、施設基準の「総合入院体制加算」の取得に向け取組を推進しました。

その結果、本年6月からの算定開始に至りました。これらの取組を行ったことから、達成度は「Cのほぼ目標どおり」とし、「Ⅱの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

資料14ページの中段をご覧ください。成果指標といたしましては、医業収益の額は、30年度実績を5億円上回り目標値を概ね達成したことから、評価は3、病床利用率は平成30年度実績値を上回りましたが、目標値を下回ったことから評価は4となりました。

今後も平均在院日数の短縮、未収金対策の強化、医療機能の充実・強化等による診療収益の確保に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、ほぼ目標どおりのC、進捗状況といたしましては、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、Ⅱといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、14ページの多摩病院をご覧ください。「取組項目(1)収入確保に向けた取組の推進」でございます。

成果指標といたしましては、「医業収益の額」の評価は「2」、「入院患者1人1日当たり診療収入(入院診療単価)」の評価は「3」、「外来患者1人1日当たり診療収入(外来診療単価)」の評価は「1」、「病床利用率」の評価は「3」といたしました。今後も「医療機能の充実・強化による診療収益の確保」「精度の高い診療報酬請求」「未集金督促・催告の強化」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「目標を上回って達成」ということで「B」、進捗状況といたしましては、「順調に進捗」ということで「I」といたしました。以上です。

(林川崎病院事務局長)

川崎病院でございます。

15ページ上段「取組項目(2)経費節減に向けた取組の推進」について説明させていただきます。成果指標の評価は、3、4となりました。

薬剤、診療材料の購入について、ディーラー等と複数回の価格交渉を行い、納入価格の引き下げに取組むとともに、医療機器の購入においても価格交渉を強化し、保守契約を含めた入札を実施し、費用の縮減に取り組みました。

また、医療材料新規購入の適正化を図るため、院内委員会における採用審査の厳格化なども行ったことから、達成度は「Cのほぼ目標どおり」とし、「Ⅱの一定の進捗がある」といたしました。

川崎病院からは以上でございます。

(北村井田病院事務局長)

井田病院でございます。

15ページの中段をご覧ください。成果指標といたしましては、職員給与費対医業収益比率は平成30年実績値より改善し、目標値を概ね達成したことから評価は3、委託費対医業収益比率につきましても、平成30年度実績値より改善し、目標値を上回ったことから評価は2となりました。

今後も、効果的な高額医療機器の購入手法や、より安価な診療材料の購入、効率的な在庫管理等経費削減に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は、ほぼ目標通りのC、進捗状況といたしましては、目標達成に向けて一定の進捗がありましたことから、IIといたしました。

以上でございます。

(小林多摩病院事務部部长)

多摩病院でございます。

それでは、15ページの多摩病院をご覧ください。「取組項目(2)経費節減に向けた取組の推進」でございます。

成果指標といたしましては、「職員給与費対医業収益比率」、「委託費対医業収益比率」とともに評価は「3」といたしました。今後も「適正な在庫管理」「業務効率化による時間外勤務の縮減」に取り組んでまいります。

資料の右の列をご覧ください。達成度は「ほぼ目標どおり」ということで「C」、進捗状況といたしましては、「一定の進捗がある」ということで「II」といたしました。以上です。

(大道委員長)

ただいま、「取組課題3 強い経営体質への転換」について、取組状況、達成度及び進捗状況の説明がありました。何か御意見・御質問等がございますか。

よろしいでしょうか。今期は各病院とも、少なくとも収支状況につきましては、好結果が得られているので、このような結果も理解できないわけではないと思うのですが、私の立場でどういう申し上げ方をしたら良いのでしょうか。14ページ川崎病院です。

病床利用率の実績値が令和元年度は67.4%です。ただ、収益性については先ほどからご説明のある通り黒字達成ということなんです。病床利用率が70%に満たないままでも、少なくとも入院外来を含めれば、収益性を担保できているということになると、逆に言いますと病床数そのものがどういう意味なんだと、多すぎるとは申し上げませんが、3割以上が患者さん収容していないまま経営されているということについては、大いにその意味合いというものを、あるいは今後の適切な見直しが必要になる可能性があります。いろいろ事情があるのは承っております。実質一部、休床という言い方が良いのでしょうか。稼働の実態が無いところもないと伺っておりますけど、であれば尚更なことと思われ。只今、地域医療構想等の話も進んでおります。しかし一方で、新型コロナウイルスの受入れ等についても公立病院の役割が改めて期待もされておりますし、適切な対応も求められている。こういう中で病床利用率をどう考えたら良いのか、特に基幹病院である川崎病院の病床利用率については、次期経営計画でもしっかりと御検討いただければと思います。

他にどうでしょうか、最後のこの部分について何か御指摘はございますか。

(金井川崎病院院長)

今、病床利用率の話が出ましたけども、前からお話していると思うのですが、川崎病院が一般病棟と特殊病棟と二つあります。特殊病棟とは小児科、産科、精神科、感染症病棟です。いずれも、病床利用率が低くならざる負えない病床になります。一般病床では全部80%を超えております。それが普通の病院にある病棟です。そういう意味で言いますと、病床利用率が低めに出るのは病院の機能からいってやむ負えないところがあるのではないかと考えております。

(大道委員長)

御説明は再三承っておるのですが、であるならば、このままの運用の仕方によろしいのかということは、私の意見が特に委員会の意向を必ずしも代表しているわけではありませんが、公立病院である他の特殊病床と仰いましたけど、もし柔軟性を持たせた運用が必要であるのだとすれば、それはそれなりの適切な運営方針や具体的な運用の方向性をお示しいただかないと、評価委員会としては御意見を申し上げようがないということになると思います。関連で御意見どうぞ、私だけが申し上げてもと思いますので。病院側の御説明をもっともだと、まあこのままで良いとは申し上げないけれども、それであるならばといった趣旨の御発言はございませんか？

これまでも実は70%以上の利用率を達成されたことは、この委員会でお見受けすることは何度もあります。ですから、低いことを決して責めているわけでは無いのです。むしろ経営実績を上げておられるのだから、それはそれで非常に評価されるべきことではあるのだけれども、病床というのは様々な役割を担うべきだという議論の中で、もし川崎の地域の事情で、そのようなことが適切だということがあれば、その旨を病院局も含めて、しっかりとお示しいただかないと、評価委員会としては御意見を申し上げようがないということになります。よろしいでしょうか、この件は。

それでは、先ほどから出ている当委員会としての評価の見直しについては、繰り返しませんので事務局の方でしっかりとご対応いただきまして、全体を通じて何か御発言はございませんか。

では事務局から、この点検・評価のとりまとめについて、御説明をお願いいたします。

(郷野経営企画担当課長)

本日は貴重な御意見、ありがとうございました。

この点検・評価書の今後の取りまとめについて御説明いたします。

本日いただきました御意見を取りまとめるとともに、今回の議事録ができましたら、その確認と合わせて意見照会の文書を送らせていただきますので、後日お気付きの点や御意見等を御返送いただければと存じます。そちらをまとめまして、最終的な「点検・評価書」の形にしていきたいと思います。

「点検・評価書」は、11月に予定しております次回の委員会で最終的に御確認いただいた後、製本のうえ関係機関へ送付し、ホームページ上でも公開する予定でございます。

以上でございます。

(大道委員長)

ただ今事務局から、「点検・評価のとりまとめ」について説明がありました。御意見・御質問等がございますか。

以上で、1つ目の議題が終了となります。

それでは次の議題、「新型コロナウイルス感染症への対応と経営への影響について」、事務局から説明をお願いします。

(郷野経営企画担当課長)

それでは、「新型コロナウイルス感染症への対応と経営への影響について」御説明しますので、資料2をご覧ください。

はじめに、市立病院における対応の基本的な考え方ですが、上段の表題の下にありますとおり、市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割を果たすとともに、市民に必要な医療をしっかりと提供していくこと、また、あわせて、患者数の回復、経営状況の回復に全力を挙げることをしております。

そのうえで、左上の「1 新型コロナへの対応の現状」ですが、(1)のダイヤモンド・プリンセス号への対応では、2月から3月にかけて、3病院で計20名の陽性患者を受け入れました。(2)の市中感染患者への対応ですが、①にありますとおり、神奈川モデルにおける役割として、川崎病院は高度医療機関及び重点医療機関、井田病院と多摩病院は重点医療機関となっており、②のとおり、それぞれ既存病棟を活用しコロナ専用病棟を整備する中で、一部病棟を休床するなどしながら体制を確保してありまして、これまでの陽性患者、疑似症患者の受入状況は、③の表のとおり多くの患者を受け入れております。(3)にありますとおり、緊急事態宣言が解除された5月下旬以降は、感染者数の状況に応じて柔軟に体制を維持しながら、通常の医療体制も段階的に確保してきており、7月以降の感染者の増加に対しても、通常診療を行いながら対応しているところです。

次に、「2 病院運営・経営への影響」ですが、(1)診療稼働額は大幅減となっており、一番落ち込みの大きい5月だけで前年度比で3病院で約7.4億円、2月から7月の

合計では約21億円の減となっております。その主な要因は、下段のグラフをご覧ください。3病院それぞれの月ごとの各件数について前年同月と比較した減少幅を表しております。一番落ち込みの大きな月にその割合を示しております。左から紹介患者数、手術件数、救急患者数、救急搬送受入数の状況でございまして、これらの減少に伴い入院患者数、外来患者数も減少し、結果として一番右のグラフのとおり稼働額の減少につながっているものでございます。

なお、上にお戻りいただきまして、右側の表でございまして、先般公表されました日本病院会等による病院経営状況調査の結果と市立3病院の状況を比較したものでございますが、いずれも概ね全国の数値よりもマイナス幅が大きくなっておりまして、都市部におけるコロナ受入病院の厳しい状況が見られております。

(2)に今後の不透明な要因として、新たな生活様式の定着や意識の変化による受診の減などの受診動向、また、今後のさらなる流行の可能性などから、患者数の回復は決して容易ではないものと考えているところでございます。

しかしながら、今後、国の交付金等を財源とする県からの補助金等の支援も最大限活用しながら、さらなる収入確保や経費節減に取り組み、局をあげて経営状況の早期の回復に努めてまいります。

説明は、以上でございます。

(大道委員長)

ただいまの説明につきまして、委員の皆様から御意見・御質問をいただきたいと思いません。いかがでしょうか。

(渡邊委員)

どこの病院でも結構なんですけど、コロナの影響によって患者数が減少しているということで、ここに救急受入患者数が書いてあるんですけども、初診の患者さんが減少していることが一番大きいのか、従来通院している患者さんが受診されなくなったという要因の方が大きいのか、その辺の分析はされているのでしょうか。

(大道委員長)

川崎病院から御意見あるみたいですね、どうぞ。

(金井川崎病院院長)

今の質問は患者数の減少は初診が多かったのか、再診が多かったのかという質問だったと思います。他の病院は分かりませんが、川崎病院はコロナを受けているので、あまり綺麗ではないという、周辺の地域で風評がありました。それで来る患者さんが減ったという

部分が大きいです。ですから初診が大きい。それと、特に大きな影響を受けたのは小児科と産科です。お産の患者さんはほとんど来なくなりましたし、小児の患者さんも7～8割減りました。ほとんどそのような患者さんは来なくなりました。ですから、ずっと通っている患者さんはそもそもあまり多くは無いですが、病院的には初診だと思います。あと、手術も受けないと言っている患者さんもいて、手術も抑制的にやっていたので、そういうこともあって来られなかったのだらうと思っています。以上です。

(渡邊委員)

川崎病院では職員にコロナ感染者は出てないですよね？

(金井川崎病院院長)

職員の感染は4名ほど出ておりますが、それぞれ単発です。他所でもらってきて、病院の中では広げていないという状態が4件あります。

(大道委員長)

いわゆるクラスターの発生は無かった。

(金井川崎病院院長)

院内感染は無かったということです。

(大道委員長)

多摩病院からも御意見あるみたいですね、どうぞ。

(長島多摩病院院長)

多摩病院の長島でございます。

金井先生の仰ったとおりで、再診の患者さんはFAX処方とか、いろいろなことをやりながら、単純に処方を90日にしたりとか、状況は変わらないのだと思います。やはり、色々な学会でガイドラインを出して、内視鏡の手術はやめましょうとか、眼科の白内障の手術は延期しましょうとか、そういうガイドラインが出てしまったので、そういう患者さんの紹介や初診が減ったのが現状だと思います。

追加でお話させていただきたいのですが、川崎病院は感染症病床があって、元々感染症の患者さんをしっかりと診れる医療者がいるところです。井田病院も結核病床が40床あって、そこをしっかりと使ってコロナ対応ができます。多摩病院は感染症病床も、それから結核病床も無いので、一般病床で、一般の医療者を使ってしっかりと教育をして対応させていただいた分、それなりの設備を作ったりとか、あとは一般診療への影響ですね。や

っぱり減収減益というのが他の2病院と比べると大きくなっていると考えております。

恐らく今の政府の方針は、これから先どんどん、コロナの感染者が増えていく状況になっていくので、経営的な圧迫というのは非常に強くなっていくし、その点においてはやはり経営的な支援というのは、ぜひとも必要なのかなと考えております。以上です。

(大道委員長)

ありがとうございます。渡邊委員、よろしいでしょうか。

(渡邊委員)

大丈夫です。

(大道委員長)

他にどうぞ、只今の件について。

当運営委員会は、各病院の運営全般に渡る御意見を差し上げるという趣旨で開催されているわけですが、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、とりわけ市民の皆様方、患者さんの受診の仕方などが、他の民間病院等も基本的には同じ形で、いわゆる受診控え、手術・検査等の診療予定の先送りというのが、実体的にあったということもあって、当市の3病院については、発生当初の2月から影響を受けていて、4月、5月あたりがピークになっているところが多いのですけれども、この深刻な事態というのは恐らく戦後初めてと言えれば初めてで、戦前も含めて場合によってはこういう状況というのは今まで経験のない事柄です。

であるので、経営問題の側面が非常に大きいので、財政支援の問題は各病院とも、そのようなご要望を頂いてますが、病院局としても当然この問題への対応を、深刻な問題として受け止められていると思いますので、令和2年度として当委員会としての対応としては、その辺り是非市民のために適切な対応をこのように取っているというご報告をいただいて、その上で差し上げられる御意見があれば、差し上げたいと思います。

時間もありませんので、新型コロナウイルス感染症への対応と経営への影響について、令和2年度も含めて承ったということにさせていただきたいと思います。

以上で、2つ目の議題が終了となります。

それでは次の議題、「次期中期経営計画の策定について」、事務局から説明をお願いします。

(郷野経営企画担当課長)

それでは、「次期中期経営計画の策定について」御説明しますので、資料3をご覧ください。

こちらにつきましては、中止となりました3月の前回会議の資料としても事前に説明させていただきましたが、その後の新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、状況に変化がありましたので、あらためてご説明させていただきます。

はじめに、「1 中期経営計画の位置付け」ですが、病院事業の経営指針であり、また、本市の総合計画の分野別計画であること、さらには総務省から策定を求められている新公立病院改革プランとして策定しているものでございまして、図1のような関係性を持っており、また次のページの図2にありますとおり、国の要請等によりまして、平成17年度からこれまで計画を策定してきております。

3ページにまいりまして、「2 現計画の体系」ですが、市の総合計画の施策同様、目標を「信頼される市立病院の運営」と掲げ、4つの基本方針のもと、3つの取組課題、さらにその下に取組項目を置き、それぞれ病院ごとに具体的な取組と成果指標を設定しております。

次に4ページにまいりまして、「3 次期中期経営計画策定の基本的な考え方」ですが、(1)のとおり現時点では現計画の体系を維持することを基本に考えておりますが、次のページにまいりまして、(2)にありますとおり、現計画策定後の環境変化や新たな課題等にも適切に対応する必要があるものと考えております。今後、国から発出される予定の新たな公立病院改革ガイドラインへの対応をはじめ、地域医療構想等を踏まえた役割の明確化、本市総合計画や関連計画との整合、中長期的な経営の方向性を踏まえた取組の推進、そして、コロナ後を見据えた取組の検討など、対応について検討を進めてまいります。

6ページにまいりまして、「4 計画策定期間と計画期間」ですが、(1)計画策定期間については、本来、現計画の最終年度となる今年度中に次期計画を策定する予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、その収束時期やその後の受診動向が不透明な中で、具体的な取組や成果指標の設定が困難なこと、また、国から発出される予定のガイドラインも未だ出されないことから、今年度は取組課題や取組項目など骨子をまとめ、計画の策定は来年度にすることといたしました。

また(2)計画期間につきましては、図3にありますとおり、本市の総合計画との整合性を図るため、計画終期を合わせる形で、令和4年度から令和7年度までの4年間とすることとしております。

最後に(3)令和3年度の事業の進捗管理でございまして、策定期間の変更に伴い、経営計画の空白期間となる来年度につきましては、市総合計画第2期実施計画における取組目標や成果指標に基づき、事業の進捗を管理してまいりたいと考えてございまして、その内容につきましては、今後、この運営委員会の中でご確認いただきながら進めてまいります。

説明は、以上でございます。

(大道委員長)

ただいまの説明につきまして、委員の皆様から御意見・御質問をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。確かに委員会として承りました。若干1年の、空白というわけでは無いですが、中期経営計画の繋ぎ的な期間が設けられたということは、諸般の事情でこうなったということは、了解させていただきました。

これまでの当委員会での議論でもあったように、特に目標管理が前提で数値目標を設定しておられるわけなので、目標設定についての考え方はあれこれ申し上げてきたとおりなので、市全体の目標の置き方と基本の路線があると思えますが、医療は特異的な分野ですので、医療を事業として評価する上での基本的な考え方があるわけなので、それを踏まえた上で、川崎市の考え方をしっかりとそこに植え込んで、適切な目標管理のための数値目標、あるいは関連の目標などを設定していただきたいと改めて申し上げさせていただきます。

いずれにしても、医療現場は大変苦勞しておられるわけですので、彼らの努力に報いるような、或いはやりがいのあるような適切なインセンティブ、或いはモチベーションをしっかりと差し上げられるような目標を示して、それに向けて取り組むという現場の意識付け、動機付けを是非ご配慮いただきたいと思えます。今日もございましたけど、結果としてこうなったという感じの実績が少なからずある。大変項目多いですから、あれこれ目標を意識して対応するのは難しいということなのかもしれませんが、目標管理の基本的なところは先ほどから申し上げているとおりなので、この辺りメリハリのついた目標管理の方法、ここで言えば評価軸の置き方とか、その数値の設定の仕方等について、次期中期経営計画に向けて改めてお願いしたいと思えます。

以上が次期中期経営計画についての当委員会の意見ということで、申し上げさせていただきました。

以上で、3つ目の議題が終了となります。

それでは次の議題、「その他」について、事務局からお願いします。

(郷野経営企画担当課長)

それでは、その他の議題として、「今後の開催日程」について御報告しますので、資料4を御覧ください。

第2回委員会の開催予定につきまして、事前に委員の皆様のお予定を確認させていただき、資料のとおり、11月16日月曜日の13時から15時で、

また、第3回につきましては、3月15日月曜日の13時から15時で開催させていただきます。ご都合の方、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

(大道委員長)

ただ今事務局から、「今後の開催日程」について説明がありました。御意見・御質問等
はございますか。

以上で、その他の議題が終了となります。その他に委員の皆様から何かございますか。

(広瀬委員)

職員満足度が毎回低いところがあるのですが、是非、取り組みしていること、キャリア
を上げるためにあなたたちにこういう資格取らせませよとか、せつかく病院が取り組んで
いることを説明されるともう少し満足度に対する考え方が、こういうことやってくれてい
るんだといったことがあるのではないかと。十分な説明を是非していただいて、理解するこ
ろで満足度が上がる場所もあるのではないかと。思いますので、よろしくお願ひしま
す。

(大道委員長)

これはご要望ということで、ありがとうございます。他に御発言ございますか？

それでは、これで、令和2年度第1回川崎市立病院運営委員会を終了いたしますので、
今後の進行につきましては、事務局にお返しいたします。

(岡経営企画室長)

皆様大変お疲れ様でございました。また、活発な御意見をいただきまして、ありがとう
ございました。それでは最後になりますが、田邊病院局長から御挨拶を申し上げます。

(田邊病院局長)

本日はどうもお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。貴重な御意見を
いただきまして、今後の病院運営の参考にさせていただきたいと思っております。

簡単に昨年一年間を振り返れば、年度末はコロナ一色で現在に続いているわけですが、
川崎病院では医師不足の影響を受けましたが、何とか稼働自体は前年度並みを確保で
きたということ、井田病院については順調に経営改善が進んでいるというところで、頑張
って何とか赤字を解消したいところでございます。また、多摩病院につきましても特に救
急医療等に力を入れていただいております。指定管理者としても市立病院としての役割を十分
に果たしていただいております。

本当に今年の2月から始まりましたコロナ対応は、特に市立病院ということで、当初
から病院名は公表してまいりましたので、影響を早く、もろに受けた状況はございますけ
れども、コロナ対応につきましては市立3病院では院内クラスターを発生させていないこ
と、それから受入れ拒否等もしていない、それからしっかりと診療も行っていること、ま

た職員の中にもコロナが嫌だから退職するといった話も聞こえてきません。本当に現場には感謝している中で、局としてもできることとしてはコロナの対応によって生じた必要な経費、影響を受けた診療稼働についてはきちんと国や県に依頼して、それを取ってくるということで現在頑張っている状況でございます。それと同時に、徐々に一般診療を回復させながら、自助努力でも稼働をしっかりと上げて経営改善を図っていきたいと頑張っている状況でございます。

これから冬に向けて、川崎市としてもインフルと併せてコロナをどう対応していくのかという課題がやってまいりますし、本当にどうなるのか先は見えません。来年度中期経営計画を立て直しますが、今日ご指摘をいただいたように、本当に成果指標のあり方、コロナ如何によっては非常に指標の立て方が難しいと思っておりますが、何とか実態に即した指標を立てていければと思っておりますので、引き続きご支援とアドバイス等を頂ければと思っております。本日はどうもありがとうございました。

(岡経営企画室長)

それでは、これで、全て終了となりました。

本日は、どうもありがとうございました。